Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-07

大航海時代から大航空・宇宙時代へ ： 時代転換期におけるサン・テグジュペリと「小さな王子」への人文地理学そして聖杯騎士伝説からのアプローチ

川西，孝男

(Citation)
人文地理学会2021年大会:38-39

(Issue Date)
2021

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90008820

109

大航海時代から大航空・宇宙時代へ
──時代転換期におけるサン・テグジュペリと「小さな王子」への人文地理学そして聖杯騎士伝説からのアプローチ──

The Age of Discovery to The Age of Aviation & Space: From Saint-Exupéry and his *Le Petit Prince* in the Turning Point of The Age using Approach of Human-Geography and Legend of Holy Grail's Knight

川西　孝男（東京大学史料編纂所・研究員）
KAWANISHI Takao (Historiographical Institute, the University of Tokyo)

キーワード：大航空・宇宙時代，大航海時代，サン・テグジュペリ，「小さな王子」，聖杯騎士伝説，仏東インド会社
Keywords : the age of aviation & space, the age of discovery, Saint-Exupéry, *Le Petit Prince*, Legend of Holy Grail's Knight, Compagnie Française des Indes Orientales

Ⅰ　はじめに　大航海時代から大航空・宇宙時代へ

大航海時代において海路によるグローバル交易や移動を可能とした人類は今日，航空機の開発・発展によって大気圏のみならず宇宙をも視野に入れた大航空・宇宙時代を迎えている。本論は，両時代の転換期となった20世紀初頭に航空輸送産業の先駆となったフランス，その飛行操縦士で大戦期の作家として知られるサン・テグジュペリ（1900-1944?：離陸後未帰還。後に機の残骸と遺留品がマルセイユ沖で発見）と代表作「小さな王子」（通称：星の王子さま，*Le Petit Prince*, 1943）を通じて人文地理学のアプローチによって大航海時代から大航空・宇宙時代への離陸，さらには聖杯騎士伝説との関わりについて考察したものである。

Ⅱ　大航空時代初期と聖杯騎士伝説

20世紀に入ると，飛行機による大陸横断そして軍事や産業利用が注目され，航空輸送産業の導入が目指され始めた。これに先んじたのはフランスであり，その本拠となったのはトゥールーズなどが所在する南仏のオクシタニア地方であった。当地は13世紀に「聖杯に対する十字軍」とも言われた，ヨーロッパ内の反カトリック・異端勢力掃討のための十字軍によってトゥールーズやアルビ，カルカソンヌなどが制圧された歴史を持つ。このオクシタニアに郵便飛行士を目指したサン・テグジュペリが訪れた。当地一帯は20世紀において聖杯騎士伝説との関係で再度注目され，今世紀初頭には世界的な関心を集めた聖杯を題材とした小説への影響などでも知られる。

Ⅲ　サン・テグジュペリと聖杯騎士伝説

今日，サン・テグジュペリは世代や国境を越えて読み継がれている。フランス貴族の家系に生まれた彼も，上空を試験飛行する複葉機に憧れ，大空の騎士を目指してトゥールーズに赴き，航空郵便業務に携わり，その傍ら飛行中の経験や着陸した異国の地などを舞台とした小説を書いてゆく。この世界初となる大陸間航空産業航路はスペインのバルセロナやアリカンテを経由したが，共に近郊のモンセラート山そしてバレンシア大聖堂といった聖杯の地の上空を通過してアフリカ大陸沿岸へ，そして聖杯騎士伝説に縁の深いポルトガルの南米進出拠点であったブラジルを経由するなど，あたかも「聖杯（騎士伝説）が大航海時代から大航空そして宇宙時代をも導いた」と言う感を禁じ得ない。

Ⅳ　当初の国外飛行経路と大航海時代航路

大航空時代もまた大航海時代の初期に似ており，多くの事故そして犠牲者を伴いながら発展していくことになる。大航海時代に作成された精密な地図（地形図）や海図が必須であり，その着陸地も空の港Airportと言われるように，その空路は大航海時代のフランス東インド会社を中心とする海路上に築かれた通商外交関係を基礎に成り立ち，後に空港と航空管制が整備され，大戦間期の1930年代には民間旅客機が普及し始める。一方，ドイツは再軍備を進め，第二次大戦が勃発すると，サン・テグジュペリもフランス空軍偵察飛行任務に就いたほか，占領下のフランスを小説「戦う操縦士」で奪還を鼓舞・主張する役割を担った。

Ⅴ　「小さな王子」と聖杯騎士伝説

このような中，彼の遺作の一となる「小さな王子」が大戦最終局面の激戦下で書かれたが，作品はこれらを意識させず，地球と諸惑星の運行から人間とその生涯そして社会生活が愛

しみを持って問いかけられ，あたかも大戦終結後に人々が辿り着くべき世界を示すがごとくである。作品には様々な隠喩・寓話が込められ，研究も多岐にわたるが，これを上述の聖杯そして聖杯騎士伝説の視点から読み解きたい。

この小説に関し，聖書からの多くの引用を指摘するプロットの研究がある。イエズス会士であるプロットは同じくイエズス会教育機関で育った「宗教色なきキリスト者」たるサン・テグジュペリ像に迫るものであるが，私はさらに，この小説を特徴づける「一輪の薔薇」に注目している。この薔薇は彼の妻あるいは親しかった女性とされるのが通説であるが，晩年の彼は激戦そして空の世界の中で人生の意味やその神秘について考察を深めており，普遍的な愛そして人間の救済に思いを馳せていた。このことから聖書の神秘主義や異端教義にまで解釈の及んだ聖杯騎士伝説そしてそのオペラ「パルジファル」の世界観に近いと言える。この聖杯騎士パルジファルも花園の中で一輪の花と出会い，そして多くの遍歴を経てこの花を救いに戻ってゆく。自らも楽器を奏してモーツァルトやバッハを愛好するなど，当時敵国であったドイツの芸術に精通し，さらにこの小説を親友のユダヤ人に捧げたように，「小さな王子」そして「パルジファル」たるサン・テグジュペリは，オクシタニアの地そして聖杯騎士伝説の中に大戦後の欧州そして地球と人類の未来の理想姿を描いていたのである。

Ⅵ　結語　大航空・宇宙時代と人類

大戦終結後，航空産業は成長し，国際社会の緊密化やグローバリゼーションを進めた。人類はその活動を宇宙にまで広げ，宇宙時代の幕開けを告げた。また今日，世界の一大航空産業となったエアバスの本社を置くトゥールーズは，大航海時代に得た仏領ギアナの発射基地とともにフランスそして欧州の宇宙開発計画の中心拠点となり，世界の宇宙開発協力に携わっている。

航空機から地表を観るとき，かつてサン・テグジュペリが晩年に見た高度数千メートルの同じ光景が繰り広げられる。そこには「地球が生きている」という実感がある。後年の宇宙飛行士も，地球はかけがえのない愛しい存在であったと言い，「一輪の薔薇」を想起させる。一方，人類は近年，地球の資源を大量に消費し，地球環境そして生態系を急速に変容させ，自然災害や疫病が地球規模で起こる事態となっていることも周知のとおりである。

サン・テグジュペリは大戦下で破壊され，焦土化した多くの都市や自然を上空から見た時，今後人類が直面する問題を明確に悟った。そして，ロケット等の開発で宇宙時代への途が開かれる中，人類と地球さらに宇宙との共存の姿を描いたのが宇宙（天空）からやって来た聖杯騎士「小さな王子」であった。地球での出会いや感動を経て王子は「一輪の薔薇」のいる宇宙へ戻っていくが，この薔薇はキリスト教神秘主義において「薔薇十字」などと共に聖杯を指すことがある。晩年，神秘主義的世界観を強め，若い次世代そして人類の未来に期待したサン・テグジュペリも，今度は王子たちと会うために天空（宇宙）へ旅立って行ったと言えよう。

第１図　オクシタニア地方（レンヌ・ル・シャトー，筆者撮影）

第２図　トゥールーズ～アフリカ～南米航空中継地（1920-30年代）
https://www.agsmovers.com/mailers/Newsflash/2016/11/Raid/AGS-LATECOERE-Rally-2016-en.html

第３図　フランス東インド会社最大版図（18世紀）
http://radhikaranjanmarxist.blogspot.com/2010/12/french-east-india-company-contd-1.html

主要参考文献

Stacy Schiff, *Saint-Exupéry A Biography*, New York, 1994.
Antoine de Saint-Exupéry, *Le Petit Prince*, 1943.
Plott Rudolf, *Der Prinz der Sterne: Einer, der anders dachte. Gedanken zu Saint-Exupéry*, 2013.
E. Jung, M. Louise, *The Grail Legend*, Princeton Univ. Press, 1998.
Richard Wagner, *Parsifal*, 1882.
Otto Rahn, *Kreuzzug gegen den Gral-Die Geschite der Albigenser, Freiburg*, 1933.
Christopher McIntosh, *The Rosicrucians*, 1998.
Henry Lincoln, Michael Beigent, Richard Leigh, *Der Heilige Gral und seine Erben*, Ulm, 1984.
川西，『聖杯騎士伝説の研究』，関西学院大学出版会，2016.

※本発表は東京大学史料編纂所における，文部科学省所管特定共同研究「モンスーン文書・イエズス会日本書翰・VOC 文書・EIC 文書の分野横断的研究」（モンスーン・プロジェクト，松方冬子班）の海外研究支援（研究渡航国：フランス，スペイン，ポルトガル，イタリア，令和元年度）を受けており，その研究成果を活用している。